



1345
卷6



山州名跡志卷之六目錄

長谷河	同山	經塚	妙見社	小野橋	新宮	月輪	松崎	僧都山	愛宕郡
岩藏	中村	時尾	華園	御所	櫻井里	御塚	杉谷	大谷	
龜山	八谷	長谷	御所	木行坂	數珠塚	妙泉寺	本涌寺	堂	
鹽丘	谷	谷	谷	坂	塚	寺	寺	堂	
石坐	御所	辨財天	理院	御所	御谷	日輪龍	稻荷社		
明神社	谷	幡宮	院	谷	塚	龍	社		

山川名勝志卷之四
戴二
卷中
以繁畧
定峯寺堂 龍王灘 鈴市社 關伽井 萬合河 塚羅下
阿彌陀堂 東光房 護法神社 正谷 僧伽
鈴市社 先市社 鈴王灘 賀茂社 日吉社
阿彌陀堂 佛殿 地藏堂 藥師堂 如法塚
鈴鹿社 奥船 木船 神經所 御手洗河
有栖河 神山 御船 經所 木船社 左義長谷
片岡山 賀茂社 大悲山 吸募社 結河
末攝社 神所壇 尾神社 河尾神社 九折
塔 游龍 滑龍 候龍

經塚 紫雲嶽 護王神社 鋤上水
立田社 檜崎 優菩薩池 二瀨
八幡宮 經塚 無自佛
藥王坂 立田社 紫雲洞
福惜堂 野中 無言主社
御所谷 福惜堂 大豆塚 大雲寺堂
御所谷 福惜堂 番枝
小野皇后御 所谷 無言主社
梶取社 福惜堂 番枝
市原 野中
圓通寺堂 新羅神社
足酒石 靜原 圓通寺堂 不二房
辨財天社 万年岡
林塚 地藏堂 桂塚
市原 地藏堂 地藏堂
圓通寺堂 地藏堂 桂塚
新羅神社 万年岡 地藏堂
不二房 桂塚 地藏堂
智辨水社 桂塚
智辨塔 福善寺
智辨塔 福善寺
智辨塔 福善寺

山州名跡志卷之六 目錄終

樂師山
白馬池
長坂
冠石
還幸橋
冰室
光悅寺
杉坂
落葉宮
千束
鷹峯
櫻詠社
道風社
後冷泉院塔
法華學室
菩提灑
篁社
栗柄野寺

片岡社
臥拜
滿樹峠
小野炭竈
天神宮
葛野郡
同塔
若綠松
鐘伐山
神光院
小野
同杜
雲畑
岩屋
御手洗河
流木社
香水
山森
棧敷巖
御所内
石門
帝釋天
廻門
見苦野
正傳寺堂
二子塚
總門
谷
厩
金峯寺堂
護摩洞
牛若丸宅地
御生山
同杜
御生山
車坂
奧堂
惟喬船若
惟喬社
須美社
妙見堂
大門
上愛宕郡
惟喬社
栗柄野寺

山州名跡志卷之六

瑜伽林隱士如是相白慧撰

愛宕郡

松崎

在下賀茂北十四五町

里東西二分ル。東松崎

西松崎トイフ詠倭歌

方与集

すむひの付うすれ秋え又松崎よりもゆるゆき
木集

好忠

文谷

云同所北谷往昔此山蕃ヤトシテ幽ニ。此故

ニ氷室アリ。接ニ氷室

仁德帝ノ御宇額田皇子夏日山中ニ

狩ニテ深谷ノ氷ヲ得テ

帝ニ奉敬ヒテニ始ル。昔丹波山城

所々ニアツテ獻ズ。其賤納允コトハ深谷ヲ運テ極寒ノ氷ヲ

收ルナリ。今此所ヲ丈各ト称スルハ。其米室ヲ守ル。老翁ニ寄テ
名トナス。古其室ヲ架エタル材木土中ニアツテ。近年掘出ト
イフ。當所冰室。詠和歌。

堀河百首

代日を源ノアギリ。水をもとめ。のを世乃アリ。と多モ云。

經季

○松崎山本涌寺。在同所東山腹。宗旨法華宗屬。洛中立本寺。佛堂南向。額本涌寺横額尾形獨慎筆。

○開基教藏院日生。此則立本寺十世。播州ノ人也。父赤松之家族鳥居氏。十一歳ニシテ立本寺八世日經上入ヲ師トシテ出家ス。於ニ宗博覽人譽アリ。天正二年此所ヲ開テ當宗ノ學室トナス。今ニ至テ能化住職ス。諸

方ノ學徒無數

○稻荷社。在佛殿東。社西向。昔山門ノ末流

實眼僧都。靈夢ヲ感得シテ所勸請也。

○僧都山。同所後山別称也。實眼僧都苦修勤行ノ地謂也。

○杉溪在同山

○松崎山妙泉寺。在同西村山下。宗旨本寺同上

堂南向

開基日像上人。時號上人。之弟子。當寺始ハ

天台歡喜寺ト號シテ。山門ノ末院ニテ。安觀音像始號

松崎寺。然ニ法華宗トナル事ハ弘安ノ比。實眼僧都ト云入。此寺三住持ス。其比日像上人法華宗弘通ノタメ。洛

中ニ出テ說法セリ。或時實眼夢ミラク。白狐ニ乘タル老翁來テ告云汝明日ヨリ洛ニ出ナバ日輪ノ像ヲ可拜ト覺テ後奇異ヲ生ズ。依テ洛ニ出ニ果シテ日像法師三條辻ニ於テ弘通說法セルニ逢タリ。實眼即像ノ名ヲ聞テ彼告夢ラサトル。自是聽聞ノ日ヲ重テ遂ニ我宗ヲ改テ日像ノ義ニ伏シ授法ス。然ノ日像ラ此所ニ招テ。村ノ男女ヲ集テ。彼說法ヲ聽シム。像於此說法セルコト三日也。村民又歸伏シ舊宗ヲ改ム。即日像ラ以テ當寺ノ開祖トナシ。一村皆一宗ニシテ。他宗ヲ不交シテ。于今至レリ。日像於此所書尤法華曼荼羅。今猶此寺ニアリ。每歲七月十五六日夜村ノ老若堂ノ前ニシテ。法華ノ題目ニ節ヲツケテ踊ラナス。

○此故ニ當寺ノ堂ヲ踊堂トイフ
○日輪瀧○月輪瀧古當寺東山ヨリ落ル。今僅アリ

○經塚○數珠塚○御輿塚在同山上
一村改宗ノ時初所持經數珠及氏神ノ神輿ヲ築藏
○新宮在妙泉寺西社南向鳥居同木柱
拜殿同所祭法華一乘ノ守護大比睿神改宗ノ後
法華經一部并日像ノ曼荼羅ヲ以テ神體十ナス。土入
為產沙神也

○櫻井里或書ニ松崎ニアリト云松崎東西一村ノ外
無別名。古老云櫻井トイフハ。村ノ西北岩藏ニ到ル坂ノ

前右ノ路傍ニ山神ト號ノ社アリ。其西ニ少キ淺井アリ。

是櫻井ノ跡也ト云

櫻井畠

云

未集先代ノ古名也。或云櫻井ノ名也。又或云櫻井の山と

顯季

為家

石之和歌暫載之。櫻井里ハ當所ノ舊號也。歟。但別處
ナル與不決

○木列坂 櫻井西北ノ坂也。是ヨリ石藏并御菩薩池等ニ
到ル。今狐坂トイフハ誤歟。古老說古此山繁茂セリ。此故ニ
實ハ木摺坂トイフト。然ニ石藏大雲寺境界證文古記ニ西
限木列坂ノ文アリ。此坂ライフ。今猶此坂ノ北ヨリ石藏領也

△御所谷 在越右坂東方入五六町許艮上

昔官家

○別莊アリレト云フ

△小塚 在松崎西二町許畠中傳云古山門ノ衆徒
於此所討死ス其髑髏ヲ納ム其僧侏儒ナルヲ以テ小塚ト
稱ス。一說ニ玉塚トイフハ土入ノ片言ナリ

△御所内 在松崎村西地字也不詳

○山端地名 在松崎東北有民家此所松崎山ノ東ノ
嶮ナリ

○理院 在同所西方東向 小堂東向 本尊

地藏菩薩坐像四作惠心 宗旨淨土說始安雲母寺

○小野橋 ○小野躋 在山鼻北渡南北芝橋是也
是ヨリ北方八花園長谷等ニ到ルナリ。曇ハ北ノ橋爪ヲ西

ニ到ル道也。其西ハ木行坂ノ北ニ出ル。或説云石藏ノ。小野秋津トヨスルハ此所ナルベシト云。如前云。小野トイフ所當國所ヤニテリ。今此邊ヲ小野橋。小野啜トイヒ。又石藏主近レ。又井蛙抄云。秋津ノ小野ハ大和。秋津野ハ紀伊國。石藏ノ小野ノ秋津ハ山城國ト云。

名寄石秀乃小野立御水を秋津けり。仁和院也。

桑集

阿豆下麻ハ小野と云矣。小野は月うみ也。

後嵯峨

花園村名 在小野橋北十二十三町。花園ノ名ハ古左大臣夏野公ノ別莊ニヨルナリ。其地初ハ今ノ妙心寺ノ地是也。彼入於其所。諸花ヲ愛セルヲ以。花園左大臣ト称ス。然テ入皇九十四代ノ帝彼地ヲ好取玉ヒテ。其裔孫良枝

云今此地又賜ル。仍テ彼別莊ラ此地ニ移故ニ此號アリ。上皇又彼地ニテ群花ヲ愛レ玉フ故。上皇ノ御號ラ。花園院正又萩原院正申也。又右ノ橋ヨリ花園ニ到ル道ノ右田中ニ有小山。其麓北向ニ鳥居アリ。此所ハ長谷村八幡ノ御旅所ナリ。

御所谷在同所北。向北入是則良枝山莊地也。今為山田有居所跡。此號アルハ土入ノ尊號也。

辨財天社在同所北山下。社南向。例祭九月廿日。

○

見社在同所民居間。地主神也。

中村在花園長谷中間。

○

梅宮在同所。小祠所祭不詳。自此到長谷石藏。

○

○

中間有小祠。神傳不詳。

長谷おさな地名

在中村北

詠和歌

長谷おさなあらうへよ山老さんじゆうも若わいとひすまうるすまうる人じん

伊勢

八幡宮

在同所東山下

鳥居

西向

拜殿

南向

八幡宮

此邊第一ノ大架也

鎮ち

在傳

云惟仁親王觀

講ト

例祭

八月十五日

土入

為產

沙神有う神

經塚

在本殿傍西北

傳云古

小石

面ニ書法花

經所收也。上ニ妙法蓮華經彫石塔婆アリ。土入云是

法華宗日像

上入ノ築ル處即其筆跡也ト。按此義非

ナラン歟。夫於當宗法花ノ首題ヲ書スルハ上ニ南無ノ字

ヲ置也。此石無其義亦當宗ノ上人ニ尋之。月像傳中ニ所
見ナシトイフ

時尾ときお

云

八幡宮北岡上

其中南方ニ高キ所アリ。

是ヲ號ク。古此邊ハ三井ノ別院ノ地也。此所ニ鐘樓ヲ構テ

時ラツグ。又亂世ニ相圖ノ鐘ラナラセシト云。土入トクノウ

ト云フハ誤也

八鹽はちしお

鹽或作鹽

時尾ノツバキ北工瓦タル岡

是也。感

山ノ別稱也。古此所ニ數本ノ楓アツテ。秋ノ末紅葉スルコト。

ラモツニ染ニ等レ。仍テ此號アリト。今ハ北ノ尾崎ニ東ノ山

ト向タル溪アリ。此所ニ楓少々アルナリ

新勅撰集

六帖

詠和歌

八塙はちつぼノ

ぬれ八塙のを草や草が八塙よとねまひ

義兼

新續古今集

刑部司禁捕

○源さ八幡星は祭りに公をそぞと深く入らん所

○陰山社 在ハ幡宮北西四町許 社南向

九月九日 社記未考

○牛王社 在同所北二町許 社北向

○御所谷 又朗詠谷 在ハ鹽岡東北山

此所ニ古大納言公任卿ノ幽栖アリ。士人朗詠石トイフ。於此和漢

朗詠集ヲ撰ズト。其所ハ溪ノ中ヲ北エ入り登ルコト十町餘也。又同所四五町許下ニ堂舎ノ跡アリ。傳云公任卿出家ニテ寺トナセルト。又其上有平地是ヲ佛光谷トイフ

昔佛光菴ト號ス僧坊アリト云フ

千載集前人納云乙仰其音ノ後仰其風氣ノ如ク

すり衣のあゆみよけりてあれ 宅れ
左の板乃丸風小袖差しと各の柄ととひえをき

西

乙仰

左風の匂いむかよひあまりと寝るを重り御づれ

二品法親王覺助山莊

舊地不詳

風雅集ニ云は親王覺助長月の末ノ夜番めみたる

多くお祭のねとわてをりんるには一枝の油灯く

うやうてあさうつねとす

伏見院御製

文源記と云ふ御葉の一枚イナリも人の信をうくる

覺助親王號寺長吏聖護院

後嵯峨院

皇子

○長谷河并山 共詠和歌

名寄

新撰六帖

ナミテ志母ハ八塙也。と長谷河也。望久

西行

アモト志母ハ八塙也。と長谷河也。望久

信安

○河 同所東北ノ溪ヲ流テ。於南西ニ折テ。瀬枝ニ流ル。

岩藏 或、岩倉或、石座

在長谷西

此所以太近和歌

ニ岩藏ヤハ塩ト詠ズ。號岩藏在此所里中石座明神。

社訓

石座。又天子ノ詔トシテ。玉城ノ四方ニ經王ヲ納シム。其

所右北ナリ。其地ヲ號岩藏。

故人和歌詠里。山

舊集

タラハ云ひよ方代をうらに下りはまつま食をふ

奇兵蟹

木行坂ヨ越テ。石藏ニ到ル道東西ニニノ岡アリ。何

モ南北工長シ。其形龜ニ類ス。向南向北形アリ。仍テ出入ノ

○龜山 木行坂ヨ越テ。石藏ニ到ル道東西ニニノ岡アリ。何

モ南北工長シ。其形龜ニ類ス。向南向北形アリ。仍テ出入ノ

○龜上稱ス。出ハ右方南北二町許。入ハ左方南北三町餘。又同路傍北ヨリ流ル、河是長谷河也。

○石座明神社 在同所西南山下。鳥居木柱所祭。

以嚴為鎮在所 神傳不詳 舊記云。天神所籠之窟也。神社記

○經墳 在石座東人家西竹林中。是稱北岩藏經墳也。

○岩藏山 大雲寺 院號實相院 在里西北山下。宗旨

天台 法親王門主御住持 法流園城寺流義

堂 南向 額大雲寺 墓額佐理卿筆 本尊聖觀世音

立像長五尺七寸 作行基 開基智辨僧正傳出釋書

智辨ハ謫號元ノ名餘慶ト號ス。抑當寺ハ人王六十四代
圓融院ノ御願也。傳云此寺草創ノ初洛北ノ天ニ且暮ニ必
紫雲ノ聳ル所アリ。衆人コレヲ無不怪依テ勅使ヲ遣テ見
セシメ玉フ處ニ當寺後山峯ナリ。勅使奇異ノ思ラナス。忽然ト
シテ白髮ノ老尼現ジテ告云此所ハ觀世音菩薩降臨ノ
靈地也。又使ヲ勸テ山上ニ到ルニ其所異香四方ニ薰シ。
寂靜タル靈地ナリ。使即窺ミル處ニ忽然トレテ管絃ノ音
調ヲナス。潮スルニ及テ聖衆集會シテ音樂ヲ奏ス。其中ニ
ライテ忽觀世音菩薩ノ光明赫々タル尊體ヲ拜ス。依
テ此靈地ニ伽藍ヲ建立シ玉ヒテ行基菩薩和州長谷寺
ノ觀音、御素木。第二ノ切ヲ以テ作ヒル處ノ像ヲ本尊ト
舊記

方ス今ノ本尊是也。勅使ハ藏人頭從四位下右近衛中
將兼修理大夫也。造營ノ奉行戸部納言文範卿也。其
後勅願寺卜定ム。勅使日野權中納言敦忠卿也。又依
詔佐理卿大雲寺ノ額ヲ筆ス。今堂ニカクル者は是也。已上
意

今堂六間四面實相院義尊之御再興。本尊廚子

東福門院之御寄進
同東廚子安本尊摸像近世之僧中正院日護
所作

○鐘樓在堂東後水尾院御再興
○智辨水闕伽井在堂西智辨僧正自所設也。

傳云此下流園城寺ノ三井ニ通ズ。彼僧正念珠ヲ截テ
水入ラル、ニ三井ニ浮出ト云フ

○智辨塔 在同所西傍立五輪石塔婆土人ノ版
言ニ兒首ト云フ可笑。智辨ハ正暦二年閏二月十八
日於當寺入寂

○紫雲嶽 云後山峯 ○紫雲洞 在同所

○新羅明神社 在堂乾方東向以三井護法神
智辨僧正所勸請也。神傳見別卷

○八所明神社 在堂東社南向所祭石座
新羅 八幡賀茂山主春日住吉松尾

八所長德三年四月十八日依石座明神靈託為勸

請也

○十二所明神社 在八所西所祭上八所伊勢平野木船箱荷

○護王神社 在八所社東又同東方ニ舊宮ノ右
塔婆アリ。是寶篋印陀羅尼ヲ納也。土ノ瘡病ノ時此塔
ニ祈念スルニ忽愈ハ右外所ニ有社略之

○無目佛 是土人ノ口称ナリ。大雲寺大門ノ東方橋
ノ西ノ路傍ノ角東向ニ安置スル石佛ヲイフ。諺云昔此ノ
使向テ正真ノ薩埵ノ音樂ヲ聽聞セシ因縁ヲ表シテ。其
形ノ真似ヒテ。毎年ノ政事トシ陰陽師來テコレヲ勤ム。此
所ヨリ兩自テ開テ山上ニ到ルナリ。仍此名ヲナス。其事五十

年前猶アリレナリ

○萬年岡 在大雲寺門前北一町許左 初ノ名ハ尤

岡 東福門院御遊覽ノ時假御所ヲ此所ニ建レメ玉
生至テ號玉ヘリ

○福善寺森 在同岡内南 古此所ニ號福善寺寺アリ
△鋤上木 在同岡南 名義未詳

○一言主社 在里北五町許 社西尚有社記未考
靈應ノ事人口ニアリ今ノ社 東福門院皇女文三宮
御願也

●石藏不二房 出太平記石藏同號ノ所當國之
アリ不二房ノ居所何ノ所ナル歟未考因名暫載此所

文曰藤房卿不二房ト云フ僧ヲ戒師ニ請ジテ遂ニ多年
拜趨ノ儒冠ヲトイテ十戒持律ノ法體ニ成玉ヒケリ。卷十
宣房卿尋行テニレバサル入ハケサマテハ是ニ御座候ソルが行
脚ノ御志トテ何地エヤラン御出候ト云テ住捨タル菴室ヲ
見玉ヘバヤフタル障子ノウヘニ住スツルヤトヲウキ世ノ人トバ
嵐ヤ庭ノ松ニユタヘン

野中村 在岩藏村北 是ヨリ北ニ到ル山下ノ細道ヲ西
ニ到ル靜原ニ到ル行程二十餘町也又野中村ノ北山即
岩藏ノ溪北ノ至極也

○御菩薩池 在幡枝南 名義未見實記或作瀧呂池
所載次下從御菩薩池至其北

○御菩薩池 在幡枝南 名義未見實記或作瀧呂池

傳云。往昔此池面ニ地藏菩薩現ズト。即同所村ノ中ニ六地藏ノ隨一ヲ安置ス。此故ニ称スト。云々。予未考。又云此。

池八木船神ノ領ズル處也。事ハ則彼社神秘義トイフ。

○大豆塚 在池良畔立像傳云。毎歲節分ノ夜。日本國中ニウツ處ノ炒大豆ヲ鬼神取テ此所ニ納ルト。是則或社ノ本縁ニアリ。往古ハ塚上有小祠ト云フ。

○栴塚 在大豆塚西二町許山下立像傳不考。

○地藏堂 在御菩薩池村人家間立像東向 李尊地藏菩薩立像七尺許作小野篁平相國清盛ノ願ニ因テ此所ニ安ス事見伏見六 堂八木山下立像御上人等之子等下

○栴峯 在同所北幡枝南立像御上人等之子等下

○幡枝地名在御菩薩池村北立像名義有一說當所八幡宮勸請因縁故也。載別記。

○大悲山圓通寺 在同所宗旨禪○佛殿裏額大悲圓通擴後水尾院御筆

本尊聖觀音坐像天計作定朝○潮音堂北向

後水尾院御筆 本尊聖觀音坐像天計作定朝○潮音堂北向
本尊准胝觀音坐像唐作并西國順禮觀音此地初八圓光院文英尼公ノ宅地也。公八閏左大臣基任公ノ女也。寺トナス時妙心寺龍泉之祖實性禪師ヲ為開山。後水尾院御在位ノ時御祈願寺トナシ玉ヘリ。御震翰御衣等ノ賜テ。為寺鎮也。

○圓光院塔 在同所堂東立像尼則寺後構庵而居延寶八年十一月十一日薨七十二歳

八幡宮 在同所良小山上

鳥居 西向
石柱

拜殿 南向

宮 南向 所祭同石清水云

社記未考

△御所谷 在同所卯辰間其義不詳

市原 在幡枝北

○篠塚 在幡枝北下八町 從是市原領也。此地ヲ云

市原野 岩倉太雲寺領西界也。彼寺境界之文西限

篠塚

○經塚 在同所路傍左傳云空也上々自畫法花經所納ト總じテ此所ハ一原野中二瀬鞍馬木船ヨリ死葬

地ナリ。又路傍ノ東西ニ寺アリ。其東ノ寺ノ庭ニ小野

小町四位少孫ガ墓ト称スルアリ。古老云近世ノ新

ト此寺ハ元來為墓守建立スル草庵也。即寺ノ左右ニ古墳多シ。今八寺號ヲ普陀洛寺ト號ス。西方堂ノ地藏菩薩ハ深養父ガ本尊ト云。但未見寶記。普陀洛寺ノ舊跡載次下。

野中村 在市原村北

○粟穗辨財天社 在野中村内路傍西 拜殿 東向
社 同 所祭辨財天安天女像作弘法号粟穗辨財天傳云此天當地影尚ノ初村ノ一耆宿ニ夢中ノ告アリ。美女忽然ト枕上ニ來テ云吾ハ是河上ニ棲辨財天也。家ハ西方ニアツテ心ハ東南ニ通フ。鞍馬寺ノ附沙門天ト誓約アルヲ以テ居ヲ多門天ノ近隣ニシメテ鎮ニ王城ヲ護

ト欲ス此所ハ即福地ナリ。吾居スルニ堪タリ。故ニ來ル吾ラ留
シメバ福榮ナント。覺テ後奇異ノ思ラナレテ。曉旦ニ及デ河ノ
邊ニ出ルニ。六寸ノ白蛇栗ノ穗ニ坐し玉ヘリ。一村相議シテ。先
假殿ニ移レ。其後社壇ヲ造ル。仍テ客人栗穗御前ト号ス。
是則永享二年九月九日ノ夜也。靈驗益アラタナリ。傳記
○神明宮 在右社東宮 西向

○立田社 在野中村内路傍西 鳥居東向 小祠

傳未考。土人爲產沙神ト

△福惜毘沙門堂 在立田北路傍西向。近年改テ
称福富。謬ニ此多門天ハ福ヲ惜テ。鞍馬寺ノ多門天ニ
參テ。授歸ル輩ノ福ヲ。此所ニテ奪留ラレト。此ニ鞍馬寺

○巷辻 在毘沙門堂北。自是北至鞍馬木船等右
至静原。次下所載云藥王坂迄到右名所也。
静原 在巷十町餘境地山間ニシテ。南北ニ瓦リ。人家
山ニアリ。

新撰六帖
峠集
宿をあて何處に生つてゐやむかとあつて住居セ 信定
西行

○普化洛寺 古清原養父幽棲地也。後ニ改テ寺トス。
開基延果僧正 本尊千手觀世音釋書及拾芥抄
舊地靜原北端ヨリ五町許寅ノ方ニ當ル山間也。谷ヲ左ニ
入ルコト二町許。土へ此所ヲ云堂谷。其山上古木森々タリ。

是其堂跡也。大ナル岩アツテ。景色アナス。其地傍ニ古タル
石塔婆一重アリ。土人曰。此四面土中ニ壺四ツアリト云。
當寺荒廢ノ後本尊散在シテ。奥州毛越寺ノ内吉祥堂
ノ本尊トナス由。東鑑ニ載。又平家物語後白河上皇
大原ノ女院ヲ訪五フトテ。鞍馬通ニ此道ヲトフリ玉ヒテ。
普陀洛寺御覽ノ事ヲ載タリ。則此所ヨリ東ニ其坂路
アリ。見次。○平家物語卷十二曰。法皇夜ヲニステ大原ノ
奥エ御幸ナル。忍ノ御幸成ケレバ。供奉ノ入々ニハ。德大寺
院山院土御門以下。公卿六人殿上八人北面少
少候ニケリ。鞍馬ドラリノ御幸ナリケレバ。彼清原深養父
ガ普陀洛寺小野皇后宮ノ舊跡観覽有テ。ソレヨリ御

輿ニサレケル下畧。右ノ文ニ因ヒ。小野皇后ノ御所。靜原
ニ近カリシト見ニ其所今不詳。接ニ普陀洛寺ヨリ大原ニ到
貨。其中間ニ皇后ノ舊跡ヲ載タリ。然ヒ大原郷内ニアル歟。
靜原ト隔ハコト東ノ坂ヲ限テ其東大原郷也。小野ハ庄号
ニシテ。大原ハ小野庄也。平家物語ノ文ニ鞍馬通ド云フハ。
鞍馬ヲ過テ往ニハアラズ京師ヨリ鞍馬路ニカツテ到ルヲ
云フ也。路ノ體如上云。市原ヲ經テ。鞍馬エハ北ニ到リ普陀
洛寺エハ古ニ到ル也。
○藥王坂 在普陀洛寺溪東。從靜原越。大原坂也。
土メヤツコ坂或ハヤコウ坂トイフ。土佐坊昌俊。京ヨリ此
所ニ迹來シ事。載盛衰記。昌俊ハ大原路ニカツリ。龍華越ヲ

志レ近江路北山ヲ差テ落ケルが軍兵二手三手ニサシハ
シ前ヲ切テ延ヤテズ。昌俊大原ヨリ。藥王坂ラコエ。鞍馬山ニ
迎籠ル十三丁卷四十六

小野皇子太后宮舊跡

不詳。暫載此所。後人可有考。

后宮。諱觀子。後冷泉院ノ后。宇治關白賴通公第三女。系圖傳
續世継物。沈え。之を後冷泉後乃女門よりして。室立す。之を室也。アヒはアヒ。室を室也。かわぐりそ。形保え。ひの松は。一おほ。アヒて。后は位みてひこの山を
仰とと小野とつぶ里に。落ぬまをあまひく。おはか。仰
ち。アヒ下畠

古今著聞集。あく。河内源氏。阿賀見比。喜多

石。さく。は。は。は。は。人。は。は。は。車。の。ま。う。え。一。後。
や。で。少。門。ま。く。西。宮。を。ま。う。ね。行。方。え。う。ひ。よ。べ。と。小。野。の
皇。室。を。ま。う。の。御。室。を。ま。う。ひ。よ。べ。と。小。野。の
御。室。を。ま。う。の。せ。く。彼。え。え。も。粉。も。つ。せ。て。か。る。車。の。り。
と。で。不。な。車。の。り。く。い。く。ば。用。を。ま。う。べ。ト。と。も。り。と。され。
み。れ。ま。れ。る。具。を。け。ま。せ。ざ。だ。し。に。あ。と。ま。り。て。寝。取。十。万
ト。を。ま。う。ま。き。を。ま。り。あ。と。さ。づ。う。り。く。ほ。ら。ん。ま。す。
わ。バ。い。と。ま。ア。入。ま。そ。れ。ぐ。ま。を。厚。え。ま。ま。く。人。と。ゆ。え。る
す。即。そ。て。さ。づ。ご。た。く。み。き。う。た。う。く。て。か。く。人。ね。く。ま
け。ぬ。あ。づ。く。南。幸。を。り。て。な。車。や。り。入。く。ま。が。く。く。ひ。ま。
ト。ー。う。せ。や。ち。く。ー。ゆ。ー。う。れ。ば。ま。き。ふ。す。め。ま。き

ケラ。梅葉はくまづきをうき。二人。一人ハ流ひ行によみの
まづ。シ。御ちまづにて。金乃立。一。さきとれい。城ねこを
き。一人ち行の。祇子イ。湯がままで。ねを。二人。重
寝殿のまへをへ。そ。ばこうとわ。先よふりぐで。御
車えと。あり。ケラ。きの。ト。タ。優。小。な。ん。く。え。は。な。酒。公。う
の。一。う。も。セ。キ。つ。ぎ。櫻。ハ。李。無。は。供。小。け。き。く。酒。セ。う
上。ま。う。ア。セ。お。く。一。ケ。ラ。ヤ。に。持。ア。く。ま。う。ミ
セ。タ。ア。ナ。リ。袖。一。き。レ。ミ。く。衣。ア。ソ。ア。レ。ム。酒。セ。ラ。ル
萬。人。ア。ド。ア。ト。ハ。幸。る。を。ア。つ。ぎ。ま。う。ア。燒。も。う。き。ガ。漫。可
ア。う。ん。り。も。ち。ひ。す。る。卷。十四。

大納言年名卿山莊 出著聞集。仍載此所。但此小

野別所歟 著聞集云。尚書會ハ唐比。食局立。又三月
立一日。白樂天覆。遙。詔。め。く。始。て。お。こ。す。ひ。る。參。行
り。貞觀十九年三月十八日。太納言。辛。名。小。河。
少。ム。め。く。み。わ。ま。う。き。や。ま。う。三。

二

瀬村名

在野中村北

○梶取社 在二瀬北木船社。一鳥居傍。梶取鳥居 東
社 東向 所祭 有口訣神祕。木船社。鷲社也。右
一鳥居ノ前ヲ到北道。從此木船ニ到。行程十八町
○足酒石 梶取社ノ北橋上。河中ノ石是也。傳云。昔宇
治ノ橋姫。始一念ノ如。懷テ。誓テ木船社ニ為。日參。其時
必此石ニ憩息テ。其足ヲスギシト

○螢石 在右石西山腹 傳云昔和泉式部木船ノ社ニ詣ル時此所ニ螢ノ飛ヲ見テ詠歌ス。仍号也ト。其和歌木船河岸影ノタクニ玉チル波ハ螢ナリト。

右所ヨリ到木船中間ニ二小社アリ。初南方西向社梅宮。其北東向社号白石社所祭未考。

○落合河 木船河鞍馬 河所食也 在螢石北右二河ノ水源

鞍馬河ハ鞍馬ヨリ一里北ニ云高坂坂アリ。又其所ヲ阿弥陀寺ト号ス。古精舍アリ。是又鞍馬領也。此所ヨリ南工流山其下ハ東西所々ノ溪ヨリ出ツ。下ハ右所ニ落合野中村ノ東ニテ靜原河ト合シテ。一原村ヲ西工流テ。賀茂ノ乾車坂ノ北東ニテ雲畑河ト合シテ賀茂河ニ出ツ。木船河ハ同里

ノ北一里許ニ背生峠アリ。是源ニレテ其所ヨリ出ツ次ハ又所ヤノ溪ヨリ落下降ナリ。木船河詠ス。和歌 委集 家隆拾集 家隆 へら波きとあが川せきはあうこうひそく 家隆 疎 家隆 所載次下到鞍馬之名跡也。木船載復其次

○歸一法眼塚 在梶取社左到北半町東方 是則判官義經若年ノ時兵術ノ師ナリト云フ。此所ニ塚ヲ築コト未考

△籬下 在右塚北二町餘 河ヲ隔テ左ノ山腹小舎ノ内ヨリ籬ヲ下シテ。河ノ東ノ畔ニ櫛ヲ立テ結留。其繩ニ上ヨリ籬ヲ掛籬エ又繩ヲ付テコレヲ暫時籬上下ニ起ル也。正月

ノ始寅ニ鞍馬寺參詣ノ輩彼籬ニ錢ヲ入レバ上ヨリコレヲ引
上テ。錢ニ應シテ火伐石ヲ入テ籬ヲ下ス。是フ籬下ト云フ。此
事恆例トシテ。每歲歛之也。其起不詳。

鞍馬

在王城北二里半

木芽漬

此所名產也。土人

曰。此所雖有靈蟲無鳴。

玉葉集

名ウカク少子をわすれまつてスモキニシテ御宿

御宿

夫集乞や改易シテうも様く角のすまきゆ

定額

顯道密勵。木目漬ハ。りとびれつるのよ深はれて。さ

く吟とりよ。絶えまりとど。已上

良集

行や鞍馬のめつも、うれひあひとみまくすまうん

二休官

○

松尾山鞍馬寺

在鞍馬山腹巽向

樓門同

安

金剛力

土ヲ長八尺許

作不考

額

鞍馬寺

堅額

青蓮院

尊證

法親王筆

從是到本堂

八町

中間有之名

○由木社

在樓門内三町

拜殿

東向牀高下有石階自是至社

社東向

所祭

大己貴命

一坐

神位

正一位大明神

天子不預

世上騒動ノ時

勒テ此社ニカクルユヘニ號勒ナリ

一說云。此神ハ蒼生ノ罪犯ヲ典玉ヘリ。又世上騒動ノトキ。以看督長轄。社ニカク。勒勘ノ門戸ニ六勒ヲカケテ。人ノ往来ヲ禁ベバ。社ニカクルモ亦神ヲ罰スルノ謂ナリト云。當神土

人為産沙神

例祭九月九日

○涙瀧

由木社北楓古木傍落東

傳云和歌アリ

其歌則牛若丸此瀧ヲ讀ル醍土入ノ云ハ非也。此歌ハ

源氏物語ニ出ツ 源氏も家をひき残さずゆく所よりれど
は花三昧わこゑのぞむ。懺悔ひて山から下つて
支えよとある。とあるく源のあよりひとおどり。

吹きふる源のわざーに爰きて洞を不す源のまゝ

源氏

右歌ハ此瀧ヲ讀リ。仍テ涙瀧ト号ス。是ハ源氏ヲハ病
レ玉フニ。此山ニ有驗ノ聖アル故ニ。為咲加持籠玉時ノ歌ナリ。

●東光坊 舊跡在由木社後。此所牛若丸學門
所也ト云。平治物語下云。牛若ハ鞍馬ノ寺ノ東光坊阿
闍梨蓮忍ガ弟子。禪師坊阿闍梨覺日ガ弟子ニナリテ。
遮那王ト云。申ケル云。

○地藏堂 在右坊北南向。地藏菩薩作運慶

○阿彌陀堂 在坂四町目右方。本尊阿彌陀佛
坐像六作行基。凡許。同所坂路ノ名也。自是五町ノ間。豎横屈曲ノ
狀云々。梵語云。らくて至にのぐ。はうづらわくと
つる。

○阿彌陀堂 在本堂石壇下北向。本尊寶冠阿
彌陀坐像二作姿阿彌

彌陀坐像二作天立像三。脇士左吉祥天。右禪臘師
童子立像二。此三尊開山鑑真和尚於當山降臨
感得像也。事起當山開基鑑真和尚。本願檀那。

藤伊勢入當寺緣起有違釋書傳

○本尊外堂內所安_左四天王 普賢 不動 刀
八毘沙門 安厨子

○堂外陣東間二畫像ヲ繫ル 左鑑真 右峯延

鑑真姓千氏唐揚州江陽縣人也。聖武帝天平勝
寶六年四月來朝_ス 帝愛信造伽藍令居弘律宗。天

平寶字七年五月六日化_ス

峯延東寺十禪師也。一日望北山有紫雲延出寺向
北行尋雲起處至鞍馬寺日已暮敲燧焚木禪坐居
數月一夜女鬼來向火延起入堂後朽木中鬼逐至
怒目動鬚延忿毘沙門忽朽木自倒打殺鬼翌日太

中大夫藤伊勢人入山見延臥問曰師何入何故臥
乎對云我來此已五月而不食故臥耳大夫便洗粳
米飲白糜漸薦膳延語來此事及婦鬼死大夫便署
延為寺主夏五月延修護摩日中大蛇自北嶺來自
如電舌若火延誦毘沙門呪蛇俄自斬為段_ス三日
後大夫來見段蛇歸闕以聞敕發役夫五十人弃蛇
靜原山谷呼其地為大蟲峯延喜中逝_ス上出釋
進士問云兩像安置間次古檀越藤伊勢人
參籠座也

○塔在堂左邊本尊釋迦佛多寶佛坐像二
作不考

○闕伽井

在堂後

源山下ヨリ出ツ。鑑真和尚於

當山ニ蛇ヲ伏ス。其一蛇ヲ救テ命云。汝此恩ヲ知バ。當山ニ水ヲ出フ。令無間斷。遂ニ放之。然所現ノ木ナリ。

○藥師堂

本堂西異向

本尊 藥師佛立像

作安阿弥

○觀音院

雙藥師堂

本尊

觀世音

四十二臂立像

作不考。藤伊勢人建立。釋書云。大夫以爲我欲安觀音像。今只置天像。願未來乎。其夜夢童子年十五許。告云。當知觀音多門名。異體同覺。後解疑。大矢後日。又營一堂。安觀自在像。今寺西觀音院是也。出廿八卷

○八所明神社 在同所西 所祭 賀茂山王

木船

春日

稻荷

松尾

車河

○護法善神社

在本堂後山上

鳥居 異向

社 同

○如法經塚

在當山境內東西南北峯并中央。已上五所

法花妙典ヲ納ム。往昔慈覺大師。山門楞嚴

ノ杉洞ニテ修セラハ。其義相ヲ寫ス處トイフ

○左義長谷

在向樓門異嶺

此事 每歲六月十九日夜當寺法事也。六人ノ役僧。此所ニ上テ儀式アリ。

古ハ如正月左義長竹ヲ立テ是ヲ燒タリ。中比ヨリ如松明シテ燒ナリ。傳云。多門天火道ノ衆生ニ授福誓アシテ。其福ヲ滿足レ玉ヘリ。然レニ衆生諸煩ニ遮レテ得ニ由ナシ。故ニ徒ニ朽ヲ以テ燒亡玉フ也。其相ヲ真似ヒテ。衆生ニ金觀ト云。松云

大和國志貴山ニモ此天ノ燒玉フトテ。土中ニ燒朱アリト。而其所ヲ米尾ト号テ。堂ヨリ西南ノ岑ナリ。

○御所壇 在本堂西。山中二町許。其地平也。傳云。往昔空也上人幼稚ノ時ハ。言語餘事ナク。啼玉フニモ。只阿弥陀阿弥陀ト宣リ。且又靈告ニ仍テ。父帝彼幼親王ヲレテ。此所ニ住シメ玉フ。其殿アルヲ以テ。此号アリト。空也。延喜帝親王也。已上縁起意此記在。

○僧正谷 在八所社西北十町餘。○車坂 在同路二町許。○牛若背競石 在右路傍。自是下坂。○不動堂 在左方南向。本尊作傳教。自是一町許ニシテ。僧正谷ニ剝ル。○太郎坊社 在五町。

僧正谷南向。此所牛若丸劔術琢磨ノ所ナリ。繼此所岩洞尋常ニアラズ。石面如劍劔刀其中。挑石陰石。擗石足駄石。礎石。水入石等為号アリ。

花鳥餘情云鞍馬ト貴布祢ノ中ニ僧正谷トイフアリ。藥師佛不動尊靈驗ノ地ナリ。

自僧正谷北有下石路。到木船行程凡二十四五町。

木船 地名。有民居云木船村。木船又作貴船或作貴布祢後三字。兩部習合家書者歟。上古記皆作木船。義難言。

壬午年夏月山川志貴船の寫

家作

名寄小水多きよりれわの間うまくほどのかしら城

家主

○木船社 在南北二所 社 南向 鳥居在二一所

拜殿 在二鳥居内

○權殿 在本殿西傍

○河尾社 本殿北 小社 南向

○牛市社 右社東 小社 南向

○鈴鹿社 在本殿西山下 東向

○經所 本殿南 東向 本尊 不動明王 供僧

守之

○結神 在本殿北二町餘路傍西 鳥居 東向

○小社 東向 社記未考

○大社 東向

○龍王滝 在同所北一町餘自西落東 夫木船
神ハ乞雨其驗アリ其時此滝來テ祈ルコト舊例ナリ
新古今集 祐國もとまふひよあひてゑらひせりあてゆ渢
水ノ瀧ノ如きかずりせたりとみ國むねせ川あれ井が葦葦

○奥社 在滝北 門 南向 供僧守之 社 南向
拜殿 南向 所祭 神秘

○御船 積石為船形南北二間許高一間餘在拜
殿 西傍

○波蔓社 在拜殿西南向

○金市社 在御船南東向

○日吉社 在金市社南東向 已上末社也

○御手洗河 在本殿東傍南流

新後拾遺集

男よ思ひんとゆろひもあらうもつて

河よゑれひびゆどもせふく

物をとほの意を残すうりらぐさきかうむうけあ

御手

奥ふゝみゆゑてたまはくはくのめがみかひと 明神

右御返歌。明ニ御聲聞エケルト云 古今著聞集

桑集

のふるふねの拂桑の木とモテモ桑岱

桑岱

大悲山 在鞍馬北五里

此所自洛陽當北山城ノ北

ノ界也。麓ニ里アリ。云大布施。按二大悲山ノ片言ヲ用メリ。

○大悲山定峯寺 在同山

宗旨天台屬聖護院

樓門 南向

安金剛力士

長六

尺許

堂 南向

本尊

千手觀音

作不詳

祕佛

當山古丹波ニ屬ス。山

城ニ屬スル時代未考。堂ノ繪馬及古器銘ニ丹州桑田郡

大悲山ノ字有リ。傳云中比和州大峯ニ毒蛇栖テ。修驗

道ノ行人入峯斷絶ス。其間諸國ノ行者名山ヲ選テ。所々

ニ到ル。此山其一所ニシテ。護摩壇ノ跡。其外修法ノ跡。今

尚アリ。此山愛宕郡北ノ究竟也

賀茂^{モモ}或作可茂鴨^{モモ} 今為所名 在洛陽乾半里許

入家數十軒。此邊悉神領也。又鴨川ヲ隔テ西八限山^{カタハシヤマ} 廿

北十町餘ノ所有入家是^テ云西鴨^{シガキ}有^リ。問鴨ハ神号ナル

歟。地ノ号ナル歟。答神号也。此故ニ此神御鎮坐ノ所^ヲ六鴨

ト云フ也。舊記曰。昔天バ重雲ヲ押分テ。日向國龜高千穂ノ峯ニ天降セ玉ヒテ。宮柱太シク立テ。久シフ留。在。其レヨリ大和國葛城ノ峯ニヤドリ玉ヒテ。此ヨリ山城ノ岡田ノ鷦ニ移リ。レシく玉フ畧。

山城國風土記云。賀茂建角身命。娶丹波國神野伊可古夜姬。生子。名玉依子。次曰玉依姫。玉依姫遊於石川瀨。見小川。今賀時丹塗矢自河上流下。取來置之床邊。忽成麗夫。遂孕生子。至成入祖。父建角身命。欲知其父造。八尋屋。豎八戸扉。釀八醤酒。而神集七日七夜遊樂。謂其子曰。汝飲此酒。將杯與汝父。其子即舉杯置矢前。向矢穿屋甍而升於天。乃因外祖。

○父之名号賀茂別雷神

神代系圖傳

○神山

神殿東山是也。別名二葉山

日蔭山

○賀茂山

共詠和歌

新勅撰
未集

○神殿

一鳥居木柱在黑北向坤

二鳥居同在一鳥

○居上

樓門南向左

○假殿

在神殿右側

○橋本社

在樓門回廊西石橋北傍

○棚尾社

在四足門段階右

○攝社末社及經所神宮寺等

賀茂重政

○神殿

一鳥居木柱在黑北向坤

二鳥居同在一鳥

○居上

樓門右有廊

○四足門

門內同在樓

○神殿

南向御達坐所

○假殿

在神殿右側

○橋本社

在樓門回廊西石橋北傍

○棚尾社

在四足門段階右

○ 松尾社 在本殿傍坤四足門內

○ 若宮 在本殿東傍

○ 新宮 在若宮東

○ 山尾社 在新宮右傍

○ 土師尾社 在御札屋前此所

○ 藤尾社 在新宮南

○ 諏訪社

○ 片岡社 在片岡社西

○ 片岡橋 在同社西

○ 澤田社 在訪諏異

○ 岩本社 在澤田社坤

共在本殿樓門外。河東南方
片岡東諏訪南而橋殿次也。

- 奈良社 在岩本南川南
- 川尾社 在回廊良玉垣外
- 太田社 在本殿東三四町
- 神宮寺 在太田鳥居外右
- 鎮守社 在太田社後
- 百大夫社 在鎮守西
- 白鬚社 在太田巽
- 福德社 在太田南石橋坤
- 鎮守社 在福德社巽
- 神宮寺 在福德南
- 山森社 在本殿西馬場西

○氏神社 在一鳥居坤

○聖神寺 在二鳥居西 門東向

○齋宮 在聖神寺北

四外築垣 門東向

殿舍廊車寄等

○經所 在橋本社西

○高倉橋 在橋本社北

○本殿 所祭 別雷皇太神

賀茂皇太神共

二十二社 許式日向國仁天降坐須神於賀茂建
角身命止申須神儻饗吾彥天皇乃御前仁坐天大
和乃國葛木仁宿才彼与利漸山背國岡太乃賀茂

仁遷辛山代川仁下坐天多

葛川止賀茂川止

合處仁

立坐給

比賀茂川乎見巡之天宣久狹久少也

止云

止毛石川乃清流也

止天

石川瀨見小川止号久川

上仁宮所於定給天北山乃麓仁住給利其時此所

乎賀茂止云也止

豐葦原ト定記云古仁八十萬乃神達乎天高市仁

集給比神議仁議給天可遣神

於尋出之奉利此國

陪鹿島仁坐寸武雷神香取仁坐寸齊主神止於下

之千早振惡神

於悉皆伏世順陪奉天遂報申寸此

後建角身命國々於見巡之御座寸於是天鉢女命

磐樟船乎醉奉利尊於神代乃浦乃浪靜奈留磯未

送利御座仍天天乃神与利賜之神寶乎以天此

國乃固止成世玉波牟止天北山乃麓仁應化之百
王於守利玉布經津主武雷神母同此所仁垂跡之
玉陪利

○別雷者賀茂山自然ノ称号。其麓ニ神影向ノ故ニ号
之也然ルラ鳴雷ノ神靈トナスハ非也

○別雷神号詠古歌

マヘナヒムツクカラリソクスミシテノウリシモ

此倭歌御神詠載新古今集此神元天上帝ヨリ降
臨アルユヘニ如斯詠じ玉ヘリ實ニ雷ノ神ナルユカク詠じ玉ヲ

トハ不可見者歟

金葉集

アセドリム神ノヒトクレヒタマツヘガ雷神アメノ神

賀茂

此別雷神トイフモ只字面ノトナヘニツイテイヘリ願ヲ
ソラニミテ玉ヘトハ諸願ノ趣ヲイチヤク明白ニ利生
アレトノ義下ニ別雷トイハシタメ也。神号ヲ別雷ト号シ
奉レバ申ヨリ旨趣ハテラレ見玉フベシトノ意歟

御鎮座神傳并八所之攝社末社神祕云。神祇正宗
曰。社家祕無申旨故難露顯云

○岩本社○橋本社神祇拾遺云。住吉和歌之
兩神也。業平實方常拜件ニ社祈和歌之秀矣遂家
風成譽溢海内之故世人稱為兩神化現云。私曰
徒然草ノ説ハ右ニ異ナリ。伎術多云。賀茂乃鬼也橋本
ち。業平實方なり。人言乎よひいまと云々。むすめ

シキモリノに。ちうと可のアレバ。よどめて。行。

実もハミツシニ。にげれ。はと。なはと。はと。ま。ハ。株。本。の
水。ろ。を。き。れ。ど。き。て。け。る。ま。わ。私。月。を。り。ぞ。を。と
泳。ア。ヘ。の。や。ア。ト。人。ハ。ア。ト。左。原。ラ。游。ア。ハ。

宗。あ。チ。社。ト。ア。ト。も。ア。ヌ。リ。ト。コ。ロ。ミ。

○棚尾社 摂集神也。そ。べ。ト。ほ。う。は。つ。り。す。れ。され
カ。ハ。セ。ト。通。く。は。も。が。神。の。社。よ。多。を。り。せ。き。ま。う。
歌。り。く。雪。内。ら。う。え。修。け。ー。す。り。が。又。ゆ。ら。ぬ。す。り。や。そ。
に。安。ニ。年。十。月。十。日。乃。後。あ。る。と。帝。は。り。に。す。あ。る。と。
社。も。り。と。あ。く。あ。づ。く。に。ね。む。と。ね。この。ま。月。下。の。く
か。く。音。り。と。御。さ。び。の。つ。よ。お。ま。り。と。う。れ。で

○片岡社

載集

ア。リ。お。ま。り。四。手。よ。済。そ。か。ア。ス。レ。ス。ト。ア。ヌ。ル。ハ。

西行

●齋院

舊地馬場、西聖神寺北

門 東向

四外

築垣 犬廊車寄等圖ニ見エタリ

延喜式曰。凡天皇

即位者定賀茂大神宮齋王簡内親王未嫁者ト定
若無内親王者依世次簡諸王ノ女ト定入云種々儀式等

○齊王 嵯峨帝姫宮有智内親王ニ始ル

土御門院

已來斷絕

○本院 齋院別稱

○有栖川 今亡レ 古老曰其所今本殿ノ戌亥ノ間

ニテアリ大杉ノ東ヨリ流出テ。今ノ芝原馬場ノ中ヲ通テ
西方鴨川ニ入ル。今本殿ノ西ニ南北ニ亘ル。往還道ノ中ニ土
橋アリ。此橋ノ東芝原二川ノ形有テ。土中ヨリ水出ル也。
是則有栖川ノ舊跡也云。

千載集

ニ條大官大廈を有ス。於度ヲシテより附が内
サム根枝腋水也。又カニテ後まろとナシ
御守抄曰。主ぬ川也。御守のむそ。御守は御守也。又御守
は御守也。或人云。御守は御守也。御守は御守也。御守
は御守也。御守は御守也。御守は御守也。御守は御守也。
乃ヒテ又ヒテ同也。又ヒテ同也。

いさきにすらうほきあひ。乃川をもあはゆ。あは
ね。かき。御事。小所。ひ幸。は。時。を。度。の。や。さ。り。め。う。き。橋。川。を
ま。ひ。り。御。事。を。見。え。く。

(○) 假寐芝 神殿ノ西馬場ノ邊。芝ノ總名也

○ 御園橋

鴨ニ到ル鴨河ノ橋也云フ

○ 片岡山

鴨山ノ別名也

片岡庄詠和歌

御集

しもやゆ。序。景。山。八。島。も。く。か。頃。ゆ。く。の。よ。を。そ。う。

後鳥羽院

○ 府岡森 在同所麓

新撰帖

か。れ。こ。う。れ。こ。う。み。ゆ。じ。け。川。も。原。一。タ。や。こ。ち。え。

圭義太

○ 御手洗川 在神殿左。右。流。水。ヲ。イ。ヘ。リ。左。ハ。水。源。本
殿。寛。卯。方。ノ。池。ヨ。リ。出。ツ。云。蟻。池。右。ハ。水。源。鴨。川。ヨ。リ。流。レ。南

ニ至テ下鴨神殿ノ東ヲ流シテ。高野川ニ入ル也。○舊記曰。北ノ山ノ麓ヨリ。一ツノ小河流下リ。此所ニテ落アヘリ。此河波靜ニテ細フ狹クテ。底清カリニカハ御神是ヲ愛玉ニテ。石河瀬見小河トナシ宣テ。御手ラス、ギ玉フ故ニ。御手洗河氏申也。云

御集人公ニ有ヒ川ノ傍き拂トモケルを詠ヤ
歌人公ニ有ヒ川ノ傍き拂トモケルを詠ヤ
歌人公ニ有ヒ川ノ傍き拂トモケルを詠ヤ

石河瀬見小河

新古今集

川やせどれぶり川乃は夜を月を流す夜を月を

長月

右歌判
左名松云此判志附走入なづる川やもとてゆきよか正
けりか危よ石河瀬見後で行うどがくすりかくばづづうく
ねがくく行うねよ。それ度の判志べくかわぬ幸とぞ

さくさくあらむをて腰脇は仰よ利せよ物行一内じくれ
はく判トくそく。石河瀬見もと肩ひもとす及びせば
併ちーりうであたう。うち川ぬどゆくもやぶはもくうふく
空ひべーしことをまく波波不取恥うわいそくーに
ぬすり過かくえいを我我方のいたむをあはの羅敷よけと
よせーが。波波とこて。波波とくとく細せよけくとく。もう
きも波照を及ぼぬ名所わんやにとせのくやせば
旅つむくそくはーうぎをれどおととくとくうざぬも
うちーくみそーをどととくとくうにとて行こと
老のゆかりとあんや伴ーと裏

○鴨河 鴨羽河氏 同河原

共誅倭歌

舊遺集

定家

御之ひまかくミマカクふきせうもひとくの家も御り

定家

・臥拜ヨウガイ 遥拜ヨウガイノ處トコロナリ。古賀茂河原ニ臥拜ト号スル所

有テアリ 横木ヨコヒキアル由詠和歌。今ハ無レ。是則近邊往来ノ貴

賤拜シテ行フ處也

新撰シンセン 人ヒト乃ハ野ノ路ルのノ來カム外ヒタチおシむシとシ様ハシともあれセ也。行ハシ 定家

○鴨祭禮 四月中酉日 赤葵祭諸神祭節中以

此祭為最上。凡タリ祭限タリ此祭也。欽明天皇御代始

也。儀式見延喜式。

○臨時祭 宇多天皇寛平年中始

○五月五日走馬。社家第一神事也

流木社 署鴨 在本殿巽方七八町許 社向

拜殿同

流木社 當社社也。詠和歌

未集 氷ヒ乃ハ一イチ乃ハ今ハ後アフタのノれル陰カムよりタさシひ 有家

○古ヨリ於アリ賀茂カモ四箇藥師靈像アツテ。其寺同所所
所ニアリ 大乘寺 法光寺 樂音寺 能寂寺
是也。本緣載別記。

所載次下自賀茂乾至北

車坂 在賀茂乾至十四五町。此坂ヲ号車坂。往

昔惟喬親王小野ニ閑居。ニ玉ノ時。此所ニテ乘車。ニ玉。自此
是嶮路ナル。以テ車ヲ此所ニ留玉ヘリ。故此号アリト

○ 滿樹峠 在車坂北半里

雲畠

在端北一里餘

但自此

北村里ノ總名也。續テ

三村

アリ。畠三村ト云フ。

中塚河

中畠

出谷

是

也。南ノ端ヲ口畠ト号シ。

北ヲ奥畠ト云フ。夫此谷ヲ雲畠ト

云フハ往昔

藥王菩薩出現ノ靈地ナル故也。衆生ノ病苦ヲ

為救諸藥艸藥木ヲ生ス。仍テ東西ノ山上常其藥花不

絶シテ四方ニ薰ス。仰テ山上ヲ見レバ宛モ諸色ノ雲ヲ生

ズルカ如是ヲ以テ雲畠ト号スル也。菩薩降臨ノ地ハ此村

ノ北岩屋山是也。

牛若在宅地

同所中塚川村ノ東南ノ山ヨリ越

馬中間ニ立リ

傳云。義經此所ニ住メリト。又有元鐘樓

○ 松古木。古此所ニ有鐘樓ト云フ。

○ 惟喬船若

在中畠内總堂

古此所ニ号九龍山高

雲寺寺又ノ安置ス。是即惟喬親王ノ設玉フ處ナリト。太

般若經全部。并同經說相畫圖。絹地一軸アリ

○ 小野炭竈禁札 在右同所民家艮谷傳云。上古

禁裏ヨリ立ラル、禁札ノ地也ト。於此所 禁裏ノ炭ヲ燒

シ也。因テ世ニ小野炭ト称ス。按此所非小野庄号也。

○ 鳥居 木柱 畠北往還道ノ中ニ立テ。入其中ヲ行フ也。

此鳥居ハ岩屋山金峯寺内天神宮鳥居也。

○ 岩屋山金峯寺 在出谷村北宗旨真言樓門東

安金剛力士額 岩屋山監額筆者不詳 堂向

繫造在山腹

在

本尊

不動明王

立像五尺餘

作未考

○奥堂

在本堂東西向

本尊

不動

立像五尺餘

作天神

聖廟僧ニ化シ此所ニ來テ造立レ玉フ所也

委縁

○天神宮

在堂前左

宮南向

抑當山ハ上古藥王薩埵出現ノ靈場也。其後役優婆塞開基ス。又弘法大師籠テ為密場。護摩修法ノ洞今尚アリ

○香水堂後岩窟ヨリ漏出ス。藥王菩薩此水ヲ穿出シテ諸藥ヲ灌洗レ玉ヘリ。仍テ其香自然ニ薰ス。諸病者はノ服スルニ無不愈。雖末代此香水譽世ニ高レ。又彼菩薩仙人ニ化シテ諸藥ヲ調レ玉ヘル舊跡山上ニアリ

○護摩洞

在瀧上山腹西向

葛野郡

小野所名

在岩屋北二十餘町

上

小野下小野又

云上村下村

總ジテ自此西北ニ雙デ

東河内

河内

上村中村下村

真弓

細河

杉坂

等ノ村アリ。共ニ小野左内也。按ニ惟喬親王小野ニ籠居ノ事。伊勢物語ニ載ス。其所ハ比叡坂本ノ小野ト云。又此所ニモ其事アリ如左

○機敷嶽

在岩屋北三十町餘東河内北

境地四

面山ニテ。嶽其上ニ在リ。是即惟喬親王眺望ノ高樓アリ。レト也。此所晴天ニハ山城界及難波津等見エ。其上ニ池アリ。昔ヨリ此所ニシテ。以金土所造ノ種々ノ器物ヲ掘出ツ。然

レニ家ニ採納レバ。忽怪異ノ事有テ。或惱乱レ。或狂惑ス。故ニ此地ニ送返ス也。是即彼御所ニ所用物也ト。又云昔ヨリ於此所時雞鳴コトアリ。又同麓林ノ中ニ号ニ三本竹竹アリ。其太如杖。三本生テ。毎歲三本ノ筈ヲ生ズ。其長ズルニ及シテ。始ノ三本自枯ル。是即親王ノ鞭ヲサレ玉ヘルガ生ル所也ト云フ。

○御厩 在同所 親王ノ馬ヲ飼レ所也ト

○惟喬社 同所祭 親王御靈也 土人為產沙神 拜殿同

例祭 九月十六日 古祭節ニ六神輿ヲ選幸レ。土人種ヤノ形相ヲ盡ヒテ度リヌ。今斷絶ス。神輿納同所安樂寺

○惟喬塔 在同所長福寺 立十二重石塔婆

○惟喬親王傳 文德天皇第一子。母從四位下靜子。紀名虎女。親王住小野。故號小野宮。貞觀十四年出家法名素覺。同十五年二月廿日薨。二十六歲所載次下自車坂西南西賀茂北界至南。蓋西鴨總名有別鄉。川上村。田尻。林。真珠庵村。總門。大門。紫竹等也。此所自南順路。今宮ノ東ヨリ經紫竹至ル。

○山森 在川上村良鴨川傍。森周一町許。中有小社。南向。所祭不考。鴨本宮屬社也。又森一號浮田森。但古歌ニ詠ズル森ニハアラズ。

△二子塚 在山森西南田間。由來不詳。此名關東

ニ達スルニヤ。尋來ル者多ハ關東人也ト云フ。又件ノ塚ヨリ良鴨川ノ東ニ号婦夫石石アリ。土人ノ説義アリト雖モ以難信用不記。

○須美社 在同所北端二町許南民家西 社東向所祭未考 例祭 三月十日 此日紫野今宮人ヤスライ花ノ祭ハ於當社先勤テ。其後今宮ニ到ル也。即當所ノ土人是ヲ勤ル也。但此祭由縁實記不詳。一説曰。古高雄山法華會ノ縁ヨリ起ルト云ノ事アリ。西行法師ハ和歌ニ高雄山アハナリケルツトメ哉ヤスライ花ト鼓ウツ也。大古松是也。在同所真珠庵村東南 大古松是也。本ニ有小祠所祭木船神也。古老説ニ此地古ベ百合川也。

○御所内 云同所北田地字 傳云百合艸若宅ノ地トシトカヤ此鷹ノ名譽世ノ諺ニ云フ處也。彼樹ハ枯ルトイトモ後入植續テ為其号也。

○吉祥山 正傳寺 在同所西山下 宗旨禪門 東佛殿 同 本尊釋迦佛坐像 腎土左普賢右文殊作不考 當寺開基東岩宏覺禪師 此僧普寧禪師ニ嗣法ス。此所初々普寧ノ開ク所ニシテ。洛陽今出川ノ邊ニ在リ。寧入唐ノ後弟子東岩ニ讓ル。岩ノ代移此所。妙見堂 云正傳寺後山西北峯 土人片言ニスケン堂ト云フ。古此所ニ妙見菩薩ノ堂アリ。毎歲七月十五

日ノ夕。聖靈^{セイリョウ}ノ送火ヲ。船ノ形ニ燈スハ此峯也。京師ノ男女争^{アガマ}ニテ見之。

○鐘伐山 同麓ノ山也。併ノ火ヲ燈ス時。於此峯鐘ヲ敲テ。念佛入^ルナリ。

石門 地名 鐘伐山ノ南ニ續^ステ丘山^{カサカサ}アリ。其溪^{カニ}ヲ西ニ越ル。西麓^{カニ}云フ。此所古愛宕權現社。最初勸請^ス所ニテ。柱礎跡アリ。号^ス石門ハ甚所^{サイモン}西面ニ南北ニ並^ステ。石ニツ有テ門ヲ構^クルニ似タリ。仍テ号ル也。是則^テ彼社ノ西門ノ所也。此所ノ順路ハ紫野ノ上^{カミシナ}紫竹ノ北ラ。行^カコト七八町ニシテ入^ル西也。

總門 有民家云村名 真珠庵村ノ巽^{タキ}ノ村也。自此所^ス石門本社ノ舊地ニ至テ。其間有八町許。古愛宕ノ總門

此所ニ在レトナリ

○大門 有民家為村名 總門村ノ南ナリ 此所ニ愛宕社ノ大門有シト云 總門南端ヨリ大門北端ニ至ルニ行程三十町^キ許

○神光院 在右同所 門南向 宗旨真言 屬醍醐

△酬寺 當院安弘法自作像 每歲三月廿一日開帳

△帝釋天 在同所巽半町許 地名也。由來不詳

石佛一體埋^メ井アリ

○見苦野 云大門西野^{アマニ}此野ノ西ハ鷹峯ノ内藥師山ニ至ル。一說此號ハ土入ノ誤也。實ハ御栗栖野也。其故ハ古大内ノ時。寮御馬草ヲ生ス所也。仍テ御ノ字ヲナス源氏

物語ニクルス野ノザウ近タラン。御馬草ナンドトクカハセト云
フ。是也ト云。栗栖野又在勸修寺北。又云。右野ヨリ北。
至西鷹路傍。右ノ田間ニ在塚。是ラ號西丘塚。又北有小
塚。其地ヲ云内池由來不考。

栗栖野寺 三代實錄曰。權律師法橋上人位宗
授豫造御願寺。在山城國愛宕郡栗栖野堂舍顛覆。
佛像元在北山高峯寺。貞觀十三年大雨。水自然以
大巖石塞其道路。行八不通。去高峯寺移立於栗栖
野。

藥師山 此山自紫竹北。自鷹峯艮山也。有小堂
安藥師佛。傳云。昔傳教ノ所。開後世破壞ニ及シテ。彼本尊

他ノ有ト成ラ。近年。醫家野間氏此山ヲ求メ。又彼像ヲ
得テ建堂安置ス。但吾未拜。○此所西方ハ凡十町餘。其
南ハ紫野。蓮臺野ノ堺六七町ニ及デ。其地ヲ云鷹峯也。但
總名也。分テ峯ヲ云ヘバ。金櫛寺ノ後山ニ續タル峯是ナリ。
該云。古此山ノ林ニ鷹来テ毎歲離ラ生ズ。是故ニ此号アリ
ト。三代實錄二八。作高峯也。

冰室 地名 在紫竹北二十町餘。有民村為名。到
此所。南ニ有冰室坂。境方嶮峨ニ四面山也。上古此所
ニ有冰室 詠和歌

拾遺集

千載集 との、冰室山乃方ナレ。沙門は花落をもる。

玄家

ト。前云。岩屋ノ北ヨリ今此邊及ビ鷹峯ノ西北丹波ノ界ニ至テ。皆小野ノ庄内也。此故ニ件ノ歌。此所詠小野冰室也。鷹峯。前云藥師山西。及紫野北。南北十町許。東西七八町之總名也。

○寂光山常照寺 在右同所丹波往還道北 寺門南向

宗旨法華。此所崇致。汎談所六所。隨一ナリ。

開基 寂照院日乾上人

○白馬池 在學室西谷 今滅ス。傳云古有仙人。此所ニ住ス。白馬ニ乘テ池中ニ往來ス。乃テ号ルナリト。

○光悅寺 在同所丹波路傍南方東向 宗旨法華

此所本阿彌光悅所開也。初号太虛庵。林道春當菴人記ヲ作ル。在羅山文集堂 南向 此所於佛前唱法華題目不離處也。

○知足庵真淨堂 在堂南 法華常唱ノ道場也。此所頂妙寺住主曰然興隆也。其後深草山元政再興。千束地名 云光悅寺西

鷹峯 在平東西北 此所西南ニ雙テ三峯アリ 第一

天峯 第二鷹峯 第三鷹峯 由来未考 鷹峯

今地ノ名トス

○菩提瀧 在第三峯戌亥三十時許路傍左 此路ヲ中河谷ト云。自瀧西北半里餘中河村アリ

長坂カタハラ 坂ハラ名ナミ

在鷹峯西北半里許 坡路行程二十町許

此坂才經北丹波到ル。但是ヲ北丹波ト云フ。彼國山

國ニ出ツ。當國ノ内ハ小野東河内。西河内。真弓細川宮

辻等ノ民村ニ到ル。宮辻ハ丹波山城ノ壠也。

長坂詠和歌

宿家スルヤ うのづまく 拙よひをひなせぬりとそりせよ

長坂野カタハラノ

在坂西北 在此所奉火葬

一條院

百鍊鈔曰。一條院寛弘八年六月二十二日崩奉

葬スルカ

北山

長坂野安置 御骨於園城寺

杉坂カタハラ名ナミ

在長坂北 其所左右ニ山重テ一徧ノ山路

ナリ。此所古杉アリケルニヤ今ハ稀也。民家左右ノ山下ニアリ。

地シテ 杉坂村

道風社カタハラ

在同所到北左山下 鳥居アゲル木柱キウジ 拜殿ヘイデン 濱向

社巽向

号武宮ヌタノミヤ 名義未考 所祭

小野道風

靈神 社記未考 例祭

九月十四日 土人ヒト 为

產沙神

當社初勸請ノ地。是ヨリ巽方ニアリ。号元明神

道風傳

敏達天皇之後胤。從四位下三議岑守

孫筑前守葛絃子。

正四位下内藏頭

小野篁社カタハラ

在東河内民居坤二町許 社南向

所祭 小野篁靈 社記未詳 土人ヒト 为產沙神

例祭

九月十六日有神輿一基

篁傳 參議岑守男左大辨從二位承和三年二

月配流隱岐國同七年四月蒙敕許歸京同八年

閏四月任本位。仁壽二年十二月廿二日薨。五十歲△冠石。在東河內中路傍。形類冠。傳云。惟喬親王ノ所号ナリト。

○落葉宮。在下村。民居良一町許。鳥居南向。社殿同。

○社同。所祭。社記未考。土人傳云。柏木社。寄レ女三宮ノ靈ト。按ニ是虛說ナラン。彼源氏物語ハ。寓言ナルヲ不知哉。土入為產沙神。例祭。九月十五日。有神輿一基。

○櫻本寺。在同下村。山腹。古佛宇周備。大架巍然。今只有小堂。安觀音大士而已。

○後冷泉院御塔。記云。後冷泉院。治曆四年四月

十九日讓位。即日崩舉火幕。櫻本寺藏。御骨云。或說件。寺此所。御塔不詳。但上村ノ内ニ有冢。安古代石塔是其所歟。

○還幸橋。在下村。名義不詳。愚按。光嚴院中。比赴南方。正元年中。歸洛アツテ。丹波山國ニ入エヘリ。其時渡玉フ。故ニ号之。到山國。此所順路也。任後勘。右所載ノ北ニ西河内。細河尾野尻等ノ村アリ。尾野尻ニ有尾野尻峠。細河ノ北ニ号金花山。山アリ。尾野尻ノ西北ニ當國丹波ノ堺アリ。自是出被國山國村。已上山城乾方究竟畢。

山州名跡志卷之六終

知音子矣。東昇

後之遺風也。如人歌之，則其聲出於歌喉之外，而入於人耳之內也。

知音子矣。東昇
後之遺風也。如人歌之，則其聲出於歌喉之外，而入於人耳之內也。

知音子矣。東昇
後之遺風也。如人歌之，則其聲出於歌喉之外，而入於人耳之內也。

